

(様式 5-1)
(振興局調整費)

地域重点施策推進事業事後評価調書(令和2年度実施分)

地域振興局名 由利地域振興局

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費(円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
コロナ禍でいのちを守る！依存症対策～You are Not alone～	福祉環境部	相澤 寛	企画福祉課	調整・障害者班	0184-22-4120	コロナ禍で社会的な不安が増大し、人とのつながりが制限される中、依存症の拡大や悪化が指摘されている。 さらに、当管内においては、相談支援者等の知識、技術不足や苦手意識、支援者同士の連携不足、自助グループの不足等から十分な支援につながらないケースが散見されている。 このため、正しい知識の啓発や相談窓口の周知を行うとともに、相談支援者への研修会の開催等により、依存症者の早期発見と回復につながる支援を展開する必要がある。	263,071	○依存症支援者向け勉強会の実施 R2.11.4(基礎編)26名 R2.12.3(応用編)18名 対象:管内支援者(行政機関、医療機関、関係団体等) ○住民向け普及啓発 啓発リーフレット入りポスターを1000部作成、配布。 配布先:行政機関、医療機関、薬局、相談機関、公共施設、遊戯施設、駅、金融機関他 ○ピアサポーター※による出前ミーティングの実施 R2.11.95(1回目)13名 R2.12.16(2回目)14名 R3.93.92(3回目)95名 対象:当事者や管内支援者等 ※ピアサポーター＝依存症から回復し続けている当事者や家族	県	地域住民行政、福祉・医療等相談機関等	令和2年4月1日 令和3年5月17日	○依存症支援者向け勉強会の実施 ・事後アンケートから、「業務に生かせる内容だった」「このような研修の機会を継続して設けてほしい」との声が多数聞かれた。 ・基礎編応用編ともに、研修会の内容について、「良かった」「まあまあ良かった」が100%だった。 ○住民向け普及啓発 啓発リーフレット入りポスターの作成・配布 ・ボランティア団体から「県で積極的に啓発をしてもらえて心強い」「今後も連携していきたい」との声が寄せられた。 ○ピアサポーターによる出前ミーティングの実施 ・参加者からは、「このような会が近くで開催されるのはありがたい」「今後も続けてほしい」との声が多数聞かれた。	・研修会の中に盛り込んだ当事者からの体験談は特に好評だった。 ・出前ミーティングの開催がきっかけとなり、にかほ市でも定例(月1回)で断酒会を開催することになった(主催:秋田中央断酒会)。 ・依存症支援において、ピアサポーターの活用は、有効である。 ・ピアサポーターとして自分を活用してほしいと思っている回復者は地域に潜在している。そうしたマンパワーを掘り起こし、支援の場で継続的に活用していく工夫が必要と考える。

事業名	部名	部長名	担当課	担当班名	電話番号	事業目的・必要性	事業費 (円)	事業実施状況	事業実施主体	事業対象者	事業決定月日 (部局長会議等) 及び評価確定日	事業効果 (成果・満足度)	自己評価
にかほ市特産いちじくの 知名度向上支援事業	農林部	佐藤尚志	農業振興 普及課	産地・普 及班	0184-22- 8354	県では地域特産農産物である、にかほ市産いちじくの生産振興及びいちじくの活用による地域活性化を支援している。しかし、コロナ禍により今後のいちじく販売については、苦戦を強いられることが懸念される。そこで、特産農産物としてのいちじくだけでなく、いちじくを生産風景や甘露煮として食べる秋田の食文化等を併せて全国に発信することで、いちじく産地としての知名度の向上を図り、産地の維持と発展につなげる。	283,903	○「にかほ市産いちじく」グッズの作成 ・「QRコード付きグッズ」と「いちじく産地の魅力を伝える動画」を作成。 ・QRコードは動画配信サイトVimeoにリンクし、PR動画の閲覧が可能 ○ いちじくのPR活動 (1)「県内在住者、観光者向け」PRイベントの開催 ・R2.10.3 ・道の駅象潟「ねむの丘」 ①「いちじく」グッズ、ドライイチジクのプレゼント ②フレッシュいちじく等の販売 (2)「秋田に関わりたいと考えている県外在住者向け」プロモーション活動 ・R2.12.22 ・「にかほ市ふるさと会」の会員に「いちじくグッズ」と「ドライいちじく」を郵送し、口コミによるPRを依頼。 ・いちじく振興会会員による直販	県	観光客、消費者、生産者、にかほ市ふるさと会等	令和2年4月1日 令和3年5月17日	・コロナ禍において各種イベントの開催や商談会への出店を中止せざるを得ない中、本取組により、非接触による新たなPR機会の創出に繋がったことから、生産者、消費者双方から好評を得た。	・事業実施をきっかけに、いちじく振興会、大竹地区青年部、象潟道の駅、にかほ市ふるさと会、にかほ市等の協力体制が整備された。 R3年度以降は、実施方法を見直しながら、にかほ市いちじく振興会等による自発的な取組へ発展させていく。